

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	キッズサポートていだ鈴川教室		公表日	2026年2月27日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・集団活動や個別活動等、用途別にスペースを分けて使用している	・利用児童の成長と共に体が大きくなり、更なるスペースの工夫が必要で、ケガや事故に繋がらないように配慮していく
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		・適切な配置になっている	・普段から体調管理に努めている
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・情報の可視化、一斉指示の際は絵カードを使用している	・掲示物を最小限にし、活動に集中できる環境を設定する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・日々の清掃と消毒、1時間ごとの換気を徹底している	・職員ひとりひとりが心掛け、常に清潔な空間を保つようにする
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		・状況や必要に応じて個別に使用する部屋を設けている	・面談で使用するため、支援中は予定を入れずに対応できるようにする
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・毎日に職員会議を開催している	・時短勤務の職員も全員参加し、定期的な振り返りが継続できるようにする
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・日々のミーティング内で共有と検討をおこない、業務改善に努めている	・保護者からの意向を把握し、業務改善に努めていく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・日々のミーティング内で共有と検討をおこない、業務改善に努めている	・送迎時間が早いと職員が揃わないときもあり、個別での伝えになる場合もある、共有ノート等の使用を検討していく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		・外部講師による評価をおこない、業務改善に努めている	・継続しておこなえるようにする
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・外部講師による研修を月に2回受講している	・研鑽を積むためにも事業所内での研修を計画していく
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		・公表している	・職員全員が目を通せるようにする
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・定期的な面談をおこない作成している	・継続した支援がおこなえるようにしていく
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・計画書作成や評価をおこなう際は職員会議を開催し検討している	・支援が偏らないように、職員の意見を活かしていく
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・計画書を作成し、原案会議をおこない共有している	・計画に沿った支援が行われているか、計画書を全職員が把握していく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		・保護者より結果を受け取り、聞き取りにより確認している	・適切な使用方法を共有していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・職員会議を開催して適切に設定されているか検討している ・具体的な支援内容を確認し、支援をおこなっている	・更なる課題はないのか、見逃さないようにしていく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・季節や曜日ごとの利用に合わせて職員で案を出している	・担当職員の得意分野で偏らないように意見を出していく

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	・固定化しないように職員からの案を基に、月毎に担当職員を置決めて作成している	・固定化していないか担当以外が再度確認をおこなう
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	・状況に合わせて作成し、支援をおこなっている	・こどもの状況を適切に知っていく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	・毎日のミーティングをおこなっている	・送迎で参加できない職員がいる場合もあるため共有ツールを利用していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	・支援の振り返りをおこない、特記事項の申し伝えをおこなっている ・業務日報内でも共有している	・こどもの安全を守るためにも、申し伝えを失念したということが起こらないようにする
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	・業務日報とサービス提供記録へ記載して、検証と改善に努めている	・記録をとるだけにならぬように、記録を基に検証と改善をおこなう
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	・定期的にモニタリングをおこない見直しをおこなっている	・こどもの適切はどこかを見極める
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	・児童発達支援管理責任者が参画している	・共有することでこどもの状況は理解できるので、全員が参画できるような関わりをしていく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	・協力医療機関等と連携し、体制を整えている	・積極的に関わりを持っていきたい
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	・情報共有等で相互理解を図り支援をおこなっている	・支援計画を提示しての情報共有会を開催していく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	・情報共有会で共有と相互理解を図っている	・受け身にならず事業所から提案していくこと
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%	・児童発達センターとの連携はおこなわれなかったため、今後検討していく	・連携を図ることが実際には可能なか検討する
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	・近所の公園を利用する際に、保育園児や地域の方との関わりをもっている	・関わりを持っているが活動する機会はなかった、可能であれば機会を設けていきたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	・サービス提供記録や送迎時に伝え合いをおこなっている	・送迎時に保護者へ声を掛けて関係性を築き、家庭での様子をうかがえるようにする
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	・年に2回、保護者ネットワーク「ていだカフェ」を開催し、研修や情報共有をおこなっている	・親子行事などを組み込むなどして計画している、内容の提案を誰もができるように意見を受け入れる体制をつくる	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	・契約時と変更がある場合に説明をおこなっている	・「分からない」の意見があれば、すぐに説明をおこない対応すること	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	・定期的に面談をおこなっている	・要望の際は面談が可能なことを再度周知する	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	・作成後に提示し説明をおこない同意を得ている	・専門用語は使用せずに作成する
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	・定期的、保護者から要望がある時、事業者側で必要だと感じた時におこなっている	・自己研鑽から引き出しを増やしおこなっていく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	・祝日を利用して親子行事やティーダカフェ等を開催し、きょうだい同士での交流の場を設けている	・職員が声掛けをおこない横のつながりのきっかけづくりをする
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	・苦情窓口を設置して対応している	・事業所で委員会を開催し対応の整備をする ・起こらないことが理想だが、起きた時の対処方法を学ぶ
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	・運営アプリやSNS等で発信している	・発信した情報を確認いただけるように声掛けをおこなう
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	・鍵付き書庫で保管している	・これまで通り厳守していく
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	・面談の際に筆談や、非言語的コミュニケーションでの意思の疎通と伝達をおこなっている	・指さして伝えられるようなカードをより充実していく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	・秋まつりへの招待、避難訓練時に招いて助言をいただいている	・行事だけでなく普段の活動の様子を見ていただきたい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	・事業所の年間計画に基づき、おこなっている	・マニュアルはあるが、家族への周知が徹底していないこと
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	・事業所の年間計画に基づき、おこなっている	・定期的におこなえるように準備をすすめる
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	・見学と契約時に確認し、状況に合わせた対応をおこなっている	・くすり依頼書の周知を徹底する
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	・保護者を介して指示書を頂き対応している	・これまで通り、おやつを提供時に二重チェックを怠らないこと
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	・安全計画を作成し、定期的な研修とや訓練をおこなっている	・季節的な災害を想定しての訓練をおこなっていく
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	・活動予定、活動記録で周知している	・事前に取り組み内容を詳しく周知する
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	・当該職員が作成し、ミーティングで共有と検討をおこない再発防止に努めている	・ヒヤリハットを記入し次の日に全員で検討する
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	・外部講師による研修を定期的におこなっている	・職員の心身状況を確認して支援をおこなう
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	・契約時に説明をおこない、状況に合わせて対応し保護者への説明をおこなっている	・身体拘束をおこなわずに事前に対応できることを検討し共有する	